

## II 各教科の正答率、誤答例及び所見

### 5 英語

#### (1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問題 1	2	411	85.8	0	0.0	68	14.2	0	0.0	85.8
	問題 2	2	373	77.9	0	0.0	106	22.1	0	0.0	77.9
	問題 3	2	327	68.3	0	0.0	152	31.7	0	0.0	68.3
	問題 4	2	133	27.8	0	0.0	345	72.0	1	0.2	27.8
	問題 5	2	309	64.5	0	0.0	169	35.3	1	0.2	64.5
	問題 6 (1)	3	438	91.4	3	0.6	35	7.3	3	0.6	91.6
	問題 6 (2)	3	437	91.2	1	0.2	40	8.4	1	0.2	91.4
	問題 6 (3)	3	291	60.8	59	12.3	93	19.4	36	7.5	68.0
	問題 7 (1)	3	178	37.2	0	0.0	301	62.8	0	0.0	37.2
	問題 7 (2)	3	319	66.6	0	0.0	159	33.2	1	0.2	66.6
問題 7 (3)	3	374	78.1	0	0.0	104	21.7	1	0.2	78.1	
2	問 1	3	363	75.8	0	0.0	115	24.0	1	0.2	75.8
	問 2	3	430	89.8	0	0.0	49	10.2	0	0.0	89.8
	問 3	3	201	42.0	0	0.0	259	54.1	19	4.0	42.0
	問 4	3	281	58.7	47	9.8	94	19.6	57	11.9	65.0
3	問 1	3	362	75.6	0	0.0	115	24.0	2	0.4	75.6
	問 2	4	245	51.1	15	3.1	202	42.2	17	3.5	53.1
	問 3	4	312	65.1	0	0.0	166	34.7	1	0.2	65.1
	問 4	4	233	48.6	135	28.2	77	16.1	34	7.1	67.1
	問 5	3	255	53.2	32	6.7	141	29.4	51	10.6	57.0
	問 6	4	317	66.2	0	0.0	158	33.0	4	0.8	66.2
	問 7	4	85	17.7	86	18.0	182	38.0	126	26.3	26.9
4	問 1 (1)	3	340	71.0	0	0.0	138	28.8	1	0.2	71.0
	問 2 (2)	3	289	60.3	0	0.0	188	39.2	2	0.4	60.3
	問 2	4	148	30.9	46	9.6	185	38.6	100	20.9	37.2
	問 3	4	174	36.3	68	14.2	93	19.4	144	30.1	45.6
	問 4 (1)	3	123	25.7	21	4.4	255	53.2	80	16.7	27.6
	問 4 (2)	3	65	13.6	18	3.8	319	66.6	77	16.1	15.4
	問 4 (3)	3	120	25.1	4	0.8	265	55.3	90	18.8	25.4
	問 4 (4)	3	152	31.7	9	1.9	222	46.3	96	20.0	32.8
5	8	35	7.3	355	74.1	56	11.7	33	6.9	46.9	

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 各問題の誤答分析及び所見

平均点は、57.4点であった。標本の通過率は56.8%で、標準偏差は23.72であった。出題数は大問が5題、小問が31題で、昨年と同数であった。その中で、記述問題は16問、選択肢問題は15問となっている。内容は、大問1が28点満点で放送を聞いて答える問題、大問2が12点満点で短めの文章を読み取る問題、大問3が26点満点で会話文を読み取る問題、大問4が26点満点で長めの文章を読み取る問題、大問5が8点満点で英作文となっており、出題の傾向に変更はなかった。

① 大問1は、会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。大問1全体の通過率は69.5%であった。

問題1から問題3は、日常的な場面における二人の会話を聞いて、絵やグラフの中から、質問に対する答えとして最も適切なものを答える問題である。通過率については、問題1および問題2では75%を上回り、問題3では68.3%であった。問題3の誤答としては「ア」が最も多く、その主な原因はthirteenを正確に聞き取れていないためと考えられる。

問題4と問題5は、「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして最も適切な表現を答える問題である。問題4の通過率は27.8%であった。この問題では、会話中の複数の情報をよく整理して聞

き取る力が求められた。場面に応じて、適切に応答できる力を身に付けさせたい。

問題6は、まとまった長さの会話を聞き取り、内容について日本語で答える問題である。(3)の通過率は68.0%で、問題6の中で最も低かった。正答とならなかった解答には、「山を見に行く」「山に登る」など様々なものがあった。また、**So let's go and see it!** が正確に聞き取れていないためと思われる誤答が多く見られた。会話の概要や会話中の大切な情報を正確に聞き取る力が求められる。

問題7は、まとまった長さのスピーチを聞き取り、内容についての英語の質問に答える問題である。(1)の通過率は37.2%で、問題7の中で最も低く、誤答としては「イ」が最も多かった。質問に対する情報を取り違えたためと考えられる。まとまりのある英語を聞いて、その概要や情報を正確に聞き取る力を身に付けさせたい。

「聞くこと」の指導においては、問題1のような短めの英語を聞くことから慣れさせ、継続的に指導をすることが重要である。さらに、問題6や問題7のようなまとまりのある英語については、聞き取るべきポイントをあらかじめ示すなどの工夫を行い、その概要や大切な情報を正確に聞き取る力を身に付けさせたい。

② 大問2は、まとまった長さの英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、基本的な語や文法事項の定着をみようとしたものである。本文の単語数は約170語で、大問2全体の通過率は68.1%であった。

問1は、**I enjoyed talking with you.** を補うのに最も適切な箇所を答える問題である。通過率は75.8%であった。普段の授業の中で、前後のつながりを意識しながら英語を読む力を身に付けさせたい。

問2は、英文の内容から判断して、空欄にあてはまる最も適切な1語を選ぶ問題である。通過率は89.8%であった。日常会話でよく使われる、疑問詞を使った疑問文の使い方を身に付けさせたい。

問3は、指示された語を適切な形に変える問題である。通過率は42.0%で、大問2の中で最も低かった。誤答の約6割が、不規則動詞 **leave** を規則動詞と同様に過去形にしたものであった。時制による動詞の形の変化に注意しながら英語で書く力を身に付けさせたい。

問4は、本文の内容を読み取り、その内容に関する英語の質問に対して、英語で答える問題である。通過率は65.0%であった。誤答の約6割が、理由を述べた部分を適切に読み取れていないためのものであった。日頃からあらすじや大切な部分を正確に読み取る力を身に付けさせたい。

③ 大問3は、会話文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。本文の語数は約420語で、大問3全体の通過率は58.1%であった。

問1は、会話の流れを読み取り、その内容を表す最も適切な英文を選ぶ問題である。通過率は75.6%であった。正答以外の選択肢は、いずれも本文の事実とは異なる内容の文である。選択肢の英文を正確に読み取ると同時に、本文の内容を正確に理解することが必要である。

問2は、自然な会話になるように7つの語を適切な語順に並びかえる問題である。通過率は53.1%であった。**I'd like to** は身に付いているものの、不定詞の理解や動詞 **make** と **help** の使い分けが不十分であると考えられる誤答がみられた。文法事項を定着させ、英語をより正確に書く力を身に付けさせたい。

問3は、会話の流れを読み取り空欄に入る最も適切な文を選ぶ問題である。通過率は65.1%であった。誤答としては「イ」が多く、誤答の半数近くを占めた。会話の内容を理解させた上で、適切な表現を身に付けさせたい。

問4は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は67.1%であった。正答とならなかった解答には、本文の該当箇所を理解しているものの、含めるべき情報が一部欠如しているものが多かった。本文の内容を正確に読み取ることが必要である。

問5は、会話の流れに合わせて、空欄に入る適語を記述する問題である。通過率は57.0%であった。前後の内容を意識し、自然な会話となるような表現を日頃の授業にも取り入れて定着させたい。

問6は、本文の内容に合っている英文を選ぶ問題である。通過率は66.2%であった。誤答の6割以上が「イ」であった。本文に書かれた内容を正確に読み取ることが必要である。

問7は、与えられた場面に応じた適切な表現を英語で書く問題である。通過率は26.9%であった。誤答として、疑問詞の使い方が適切でなかったり、正しい語順で書かれていない解答が目立った。また、**be** 動詞と一般動詞の誤用もみられた。会話の流れを正確に理解したうえで、疑問詞を使って正しい語順で書く力を身に付けさせたい。

④ 大問4は、まとまった長さの英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものであ

る。本文の語数は約 510 語で、大問 4 全体の通過率は 39.6%であった。

問 1 は、本文の内容に合うように、英文の続きを与えられた選択肢から選ぶ問題である。(1)は、Mary とホストファミリーの博物館での様子を読み取る問題であり、2 段落目の該当箇所から解答することができる。通過率は 71.0%であった。誤答としては「ウ」が最も多く、京都の宝物という部分にのみ着目したためと考えられる。(2)は、Mary がウナギについて学んだこと的具体例を 1 つ読み取る問題であり、3 段落目の Junko の母の言葉から解答することができる。通過率は 60.3%であった。

問 2 は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は 37.2%であった。この問題は、5 段落目後半の Junko said, 以降の文を読み取ることで解答することができる。誤答の中には、該当箇所の理解はできているものの、日本語で適切に表現できなかつたと思われるものが多く見られた。本文の大切な部分を正確に読み取る力を身に付けさせたい。

問 3 は、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。通過率は 45.6%であった。正答とならなかつた解答には、綴り字や文構造など複数の誤りがあるもの、質問に正対していないものなどがあつた。その中には、Mary ではなく Junko が happy である理由を答えたものもあつた。質問の内容を正確に理解する力と、適切な表現で書く力を身に付けさせたい。

問 4 は、本文の内容をまとめた英文の空欄に適する語を答える問題である。誤答は多岐にわたつていた。(1)の通過率は 27.6%で、誤答には、語形に関するものが多かつた。(2)の通過率は 15.4%で、誤答の中には、5 段落目にある find あるいは found と答えたものが多く見られた。(3)の通過率は 25.4%で、誤答には、動詞の選択が適切でないものが多かつた。(4)の通過率は 32.8%で、正答が(1)～(3)と比較すると多かつた。

「読むこと」の指導において、語彙や文法事項の定着は、言語活動の充実と切り離して考えることはできない。様々な言語活動を通して、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

5 大問 5 では、与えられた条件に従い、まとめた内容を英語で適切に表現できるかをみようとした。設問では、[質問] Which month do you like the best? に対して、[条件] に従つて 5 文以上で書くよう指示されている。[条件] では、1 文目は like を使つて [質問] に対する自分の答えを、月の名前を省略せずに書き、2 文目以降は、その理由が伝わるように 4 文以上で書くように指示されている。通過率は 46.9%であった。

正答とならなかつた解答として目立つたのは、文構造や綴り字に関するものであつた。例えば、I like the best May. など語順に関するものや、I like December is the best.、September is make me happy. など動詞の使い方に関するものである。綴り字では、月の名前に多くの誤りがみられた。そのほか、文のつながりや構成が不適切で話題に一貫性がない、動詞 like の多用など同じ内容や表現を繰り返す、[質問] に正対できていない、等の誤りがみられた。

「書くこと」の指導においては、基本的な語彙や文構造の十分な定着を図るとともに、文のつながりを意識して、内容に一貫性のある文章を書く力を身に付けさせたい。

## トピック

### まず大意を把握し、細部の正確な理解へ

平成 28 年度入試の英語全体の通過率は 56.8%であった。各問の通過率を見ると、聞くことと読むことにおける概要を理解する力については、中学校での指導の成果がうかがえる。文章中で未知の語句に出会ったら、まずその意味を前後の文脈から推測する力を身に付けさせたい。

同時に、細部にわたつて「正確に読む」力も大切である。今回の入試でもそうした力が必要とされる問題があつた。例えば、大問 4 の問 1 では、本文中の単語が使用されているものの、事実とは異なる内容を示す選択肢が含まれている。(例) 大問 4 問 1 (2) **工** baby unagi travel from the Philippines to Guam.

この選択肢は、本文中の事実とは正反対の内容であり、こうした問題で正答に至るには「正確に読む」力が不可欠である。「読むこと」の指導では、まず大意を把握させつつ、最後は細部の正確な理解へと導くことが大切である。ある程度まとまった量の英文を読む場合、概要把握のためのスキミングや特定の情報検索をするスキャンニングを意識したワークシート等を活用するのが有効である。語彙や文法事項の確実な定着を図りながら、まとまった長さの英文から必要な情報を正しく読み取る力を身に付けさせたい。

